

エンタープライズネットワーク上のUmbrellaローミングクライアントの保護されたネットワークを無効にする

内容

[はじめに](#)

[背景説明](#)

[信頼されたネットワークドメイン機能とは何ですか。](#)

[IPv6の動作、WindowsとMacOS](#)

[この機能を有効にするにはどうすればよいのですか。](#)

[1台のマシンで機能をテストするにはどうすればよいのですか。](#)

はじめに

このドキュメントでは、企業ネットワークでUmbrellaローミングクライアント（スタンドアロンおよびAnyConnect）を無効にし、企業ネットワーク外で有効にする方法について説明します。

背景説明

この記事は管理者を対象としています。ネットワーク上のローミングクライアントをバックオフしたくない場合は、ここで停止します。

Umbrella保護ネットワーク機能は、単一の出力ネットワークを対象としています。出力が複数あるネットワークでは、代替機能が必要です。

現在、この機能は信頼されたネットワークドメイン機能として実稼働環境に存在します。この機能を要求する方法と、ネットワークで必要な機能については、以降を参照してください。

信頼されたネットワークドメイン機能とは何ですか。

ドメインによる信頼ネットワーク機能は、企業ネットワークでローミングクライアントを無効にし、ネットワーク外で有効のままにする方法です。この機能を有効にすると、次のことが可能になります。

- ・ ローミングクライアントによって提供されるDNS保護を無効にします
 - ポリシーをネットワークポリシーに従わせる
- ・ 信頼されたネットワークドメインチェックを除くすべてのネットワークプローブを停止します
 - 多忙なネットワークに最適
 - VAバックオフに代わる優れた選択肢
 - VAと組み合わせて使用することで、ネットワーク通話を削減

IPv6の動作、WindowsとMacOS

- Windowsでは、ドメインはIPv4とIPv6で照会されます。シャットダウン動作は、各ネットワークスタックで個別に処理されます。たとえば、ドメインがIPv4で解決され、IPv6では解決されない場合、ローミングクライアントはIPv4だけでシャットダウンし、IPv6での動作を維持します。クライアントを完全にシャットダウンするには、IPv4 および IPv6クエリを解決する必要があります。
- MacOSでは、ドメインはIPv4とIPv6で照会されます。Windowsとは異なり、ドメインがいずれかのネットワークスタックで解決される場合、ローミングクライアントはIPv4とIPv6の両方についてシャットダウンします。

この機能を有効にするにはどうすればよいのですか。

この機能は、ダッシュボードで制御されるようになりました。「コンピュータのローミングの設定」を参照してください。

- 目的のUmbrellaはサブドメインを無効にします。このドメインは次の条件を満たす必要があります。
 - RFC-1918内部IPアドレス (IPv4用) に解決されるAレコードを持つ
 - IPv6でRFC-4193 IPに解決されるAAAAレコードがある (IPv6が使用されている場合)
 - RFC-1918 IPは通常、10.x.x.x、172.x.x.x、または192.168.x.xのように見えます
 - RFC-4193 IPv6アドレスは「FD」で始まる
 - IPアドレスは到達可能である必要はありません
 - サブドメインでなければなりません
 - sub.domain.com – 良い！
 - subdomain.com – 問題ありません。
 - ネットワークからNXDOMAIN、NODATA、またはパブリックIPアドレスに解決します (このシナリオではクライアントは有効なままです) 。
 - SERVFAILがありません
 - パブリックスペースとローカルスペースを確実に制御できるように、制御するゾーン内にドメインを配置する
- サポート：
 - Umbrellaローミングクライアント
 - AnyConnect Umbrella Roamingセキュリティモジュール4.5 MR4+のみ

1台のマシンで機能をテストするにはどうすればよいですか。

Umbrellaチームがグローバルに設定を適用する前にローカルでテストするには、このオーバーライドを適用します。

1. 「customer_network_probe.flag」ファイルを作成します。
 1. ファイルが.flag.txtでないことを確認します。
2. 目的のドメインをファイルの内容に追加します。
3. ファイルを次の場所に配置：
 1. ローミングクライアント

1. ウィンドウ : %ProgramData\OpenDNS\ERC\
 2. AnyConnect
 1. Windowsの場合 : %ProgramData%\Cisco\Cisco AnyConnect Secure Mobility Client\Umbrella\data\
 3. Cisco Secure Client
 1. Windowsの場合 : C:\ProgramData\Cisco\Cisco Secure Client\Umbrella\data\
 2. macOS:/opt/cisco/secureclient/umbrella/data/
 4. ローミングクライアントを再起動します
 1. ローミングクライアント : Umbrellaローミングクライアント : 手動で無効または再起動します。
 2. AnyConnect : 親vpnagent AnyConnectサービスを再起動します

注:MacOS Roamingクライアント、AnyConnectバージョンはこのフラグをサポートしていません。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。